

名顯徳之御祈念、運丹誠盡懇信、神事祭禮仁候、諸寺役悉  
 闕如可有之由被相届候。寔以濫吹也。二又川平等<sup>(寺殿)</sup>、石動  
 阿彌陀院知行仁候。道下善光寺、大寧寺之内楊首座知行仁  
 候。阿岸千體寺、大寧寺瑞林寺知行仁候。從往古神事諸  
 寺役相定事候。殊從平等寺、鑄馬出申候。此内一寺闕候而  
 者、禮典儀式難成執行仁候。此故衆徒等各致登城、御奉  
 行所に申入候。右條々親美景被承殿旨、庶幾如先規之  
 於御下知者、神慮定而垂感應之信、大衆普披齋酒之肩  
 欣躍欣躍誠恐謹言。

永祿三年二月二日

鐵川寺衆徒等

御奉行

御披露

三月四日。足利義輝、本願寺に、能美郡廣瀨代  
 官職を菊阿に安堵せしめたるを謝し、重ねて盡  
 力を求む。

【温故古文抄】

一四一〇

先度者、廣瀨代官職事、無別儀菊阿可令存候旨、對彼在  
 所申付候段、祝著候。然菟角申上候由、所詮以糺明上彌  
 無相違可被下知事肝要候。猶宗薫可申候也。恐々謹言。  
 三月四日  
 本願寺殿  
 (この文書の年次は、松雲公遺編古文類纂に永祿四  
 年とせり。同年六月十八日の條参照。)

【乘念寺文書】 鹿島郡

一四一一

永代うり渡申能登部江尻松

合貳貫文者

右彼山者、依有要用、料足貳貫□□永代賣渡申處實正  
 也。山の堺めは一ゑんニ渡申候。松本坊之於住持、末代違  
 亂煩申候者、以此狀堅可召置候。國之徳政行候共、於  
 此儀者不可有相違候。若物方ヨリ寄進状何かたにても  
 候て出候共、聊も不可爲實正候。仍永代之賣券之狀証

文如件。

沽主 石動山

永祿參年<sup>庚</sup>申歲三月十日

松本坊 在判

加判

觀泉坊 在判

祐慶 在判

能登部江尻住人

太郎兵衛 參

(江尻は鹿島郡能登部下に屬する下出の一部地名と  
 して現存せり。)

三月廿二日。足利義輝、畠山義綱をして、伊勢  
 皇太神宮に、同宮領鳳至郡櫛比莊の神役以下を  
 舊の如く納付せしむ。

【温故古文抄】

一四一二

大神宮領能登國櫛比庄事、祭主二位朝忠前々存之神役以  
 下、遂其節段勿論候條、急度申付候。速於火渡者可喜入  
 候。併可爲神火候。猶晴光可申也。

永祿四年

(永祿三年) 三月廿二日

(足利義輝) 在判

畠山次郎どのへ

五月十三日。大町清詮、珠洲郡高座宮別當高勝  
 寺に、燈明田並びに陣僧を寄進す。

【須須神社文書】 珠洲郡

一四一三

三崎於高勝寺、神前之燈明田并陣僧之儀、任先々之儀理  
 旨違亂煩無、末代御寄進作置所、爲後日仍如件。

永祿三年

大町一兵衛尉

五月拾三日

清詮 在判

高勝寺 參

永祿四年

辛酉

紀元二二二一

正月。能登守護畠山義綱、長續連の邸に臨みて  
 饗を受く。

【長傳書】

一四一四

長對馬守七尾之私亭に畠山  
 修理大夫殿御成之節獻立附

五八七